

地域の安全は地域の手で

大地震から自分や愛する人の命を守るためには、個人や家族の力だけでは、危険や困難を伴う可能性があまりです。このようなとき、隣近所の人々が集まって、組織的に防災・救出活動に取り組むことが必要です。

「自分たちのまちは自分たちで守る」という理念のもと、日ごろから地域の皆さんが一緒になって防災活動に取り組むための組織、それを自主防災組織」といいます。

田原市では、すでに72地区で自主防災会が活動していますが、本年度、自主防災会長を補佐し、自衛消防隊

田原を襲った

東海・東南海地震の記録



写真は三河地震（1945年1月13日）後の田原市街地を撮影したと思われる貴重なもの。（愛知県公文書館蔵）

明応地震（1498年9月20日）

伊勢から伊豆の東海道諸国を震撼させた大地震。渥美で地割れ、大津波などがあり、倒壊家屋、死者もあったという。推定震度は6、推定される津波の高さは5～6m。

宝永地震（1707年10月28日）

東海沖、南海沖で巨大地震が同時発生。わが国最大の地震の一つで、北海道を除く日本全域に震動が及んでいる。田原城が損壊したほか、野田村、池尻川周辺の村が大破。大津波の発生で、海沿いの住民は山へ逃げ、赤羽根地域では多くの漁船が流損したと記録されている。推定震度は6～7。

安政東海地震（1854年12月23日）

東海沖で発生したこの地震は、宝永地震につぐ国内最大級のもの。翌日には紀伊半島沖で南海地震も発生している。田原城が損壊したほか、倒壊家屋が多数発生したが、幸い火事はなかった。表浜のほうべ（崖）も大きく崩れた。表浜、三河湾とも大津波が襲い、余震は7カ月も。推定震度は6。

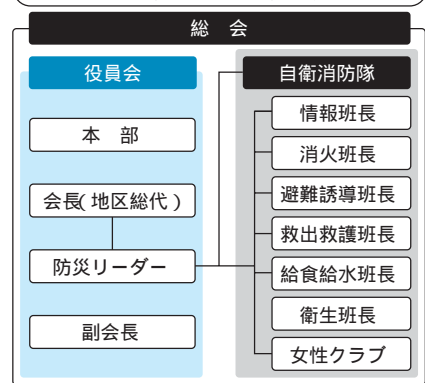
昭和東南海地震（1944年12月7日）

旧田原町で2名、旧赤羽根村で3名の尊い命を奪った大地震。田原では柳町南側や旭町西側（菅町地区）で全倒壊する家屋が多く、久美原の集落も半分以上倒壊したと記録されている。また、各所で泥水が噴出する液状化現象が見られた。震度は6。この地震のわずか1ヵ月後には三河湾を震源地とする三河湾地震が発生し、家屋の全倒壊など多くの被害を及ぼした。

注）発生年月日などはすべて西暦で表記

【参考資料】田原町史・赤羽根町史・愛知県防災会議資料

自主防災組織の構成例



長として各班への適切な指示などを行う「防災リーダー」を選出していきます。皆さんも、地域の自主防災活動に積極的にご参加ください。

サポートします 地域の安全

田原市では、自主防災会の育成と充実のため、自主防災訓練への協力や活動費の補助、自衛消防隊用法被活動マニュアルの配布、講習会・講座などを行っているほか、各ご家庭を対象に無料耐震診断や各種補強改修工事費の補助も実施しています。公共施設などの耐震化もさらに進め、今後は（仮）防災センター室の整備や防災計画の見直し、新しい防災マップの作成などを行います。また市民の皆さんには、今後も広報の「防災対策室日記」コーナーで、役に立つ防災情報をお届けしていきます。

田原市地域防災訓練を開催

平成7年1月17日に発生した阪神淡路大震災は、未だに鮮明な記憶が残っています。この震災をきっかけに定められたのが「防災とボランティア週間（1月15日～1月21日）」です。田原市では、平成16年1月18日（日）の朝に、東南海地震を想定した全市一斉の防災訓練を計画しています。大規模災害が発生したときには、自主的な防災活動が人命救助や医療・救援物資の供給などに大きく役立ちます。この機会に、過去の教訓を生かして巨大地震への備え方を一緒に考えましょう。